

2020年4月20日 中教審教育課程部会資料に関する意見

課題：これからの時代の学校のカリキュラムと授業の在り方をめぐって

提案者：京都大学 石井英真氏

－知育の協働化と徳育の個性化によって、どの子供も見捨てない皆が輝く学校へ

委員（杉江和男）の意見

石井先生のご提案は、履修と修得、個別と個性、ICTと人間などを対比し、双方を採り入れた学びのなかで“授業とは学びへの導入である”という言葉に大いに共感する。

先ず、今回の学習指導要領改訂では、「知識・技術」とともに、「思考力・判断力・表現力」（以下、考える力と表現する）、「学びに向かう力・人間性」（以下、人間力と表現する）の育成をめざしていることを改めて確認したい。

さて実際に、どの科目でどのような教え方をするかについては、カリキュラムおよび教え方・学び方を異なる要素、例えば、①基礎学力/専門学力、②知識の量/知識の理解、③一斉学習/個別指導、④教員による指導/ICT～AIの活用、の4種類の対比で考えてはどうか。すなわち、専門科目、知識の理解、個別指導を通して考える力を身に付ける、そして、基礎学力科目、広範囲な知識、共同学習、教員による指導で人間力を付与することである。

具体的に言うと、生きていくために最低限必要な基礎学力は、小学校の教員が社会に繋がる教科の意義を実例で説明し、生徒が仲間と一緒に反復学習をする。一方、高校生の専門科目は、個々人の興味と学力に合わせて、何故かと疑問を抱かせ解決策を考えさせることが自ら学ぶ教育に導くと考える。教え方はAIの方が余程上手にできると思うが、人の心の教育はAIにはできない。